

本日取り上げる作品について

◇ドヴォルザーク： ピアノ四重奏曲 第 2 番 変ホ長調 作品 87

チェコの小さな村で宿屋兼肉屋の息子として生まれたドヴォルザーク (1841-1904)は、豊穡な民俗音楽の伝統の中で育ちました。踊りと歌を愛する人々に混じって宿屋でヴァイオリンを弾く中で、ドヴォルザーク特有の朗らかな楽想が養われていきます。

彼はチェコの音楽を自作に取り入れました。その際ドヴォルザークは民俗音楽のメロディやリズムを直接用いるのではなく、それらがもつ和声の特徴を取り出したり旋律をアレンジしたりして取り入れています。また、伝統的で均整のとれた形式を大切にしながらドヴォルザークの特徴です。

そうした作風の立役者となったのが 8 歳年上の作曲家ブラームスでした。ドヴォルザークはブラームスの推薦によって奨学金を得、出版社で紹介してもらったことで作曲家としての地位を確立することができました。ドヴォルザークはベートーヴェンとブラームスの作品を研究することで主題を巧みに展開する技術を身につけ、整った形式の中でリズムやメロディを自在に遊ばせることが出来るようになったのです。

本作は出版社ジムロックの依頼で書かれました。ブラームスのピアノ四重奏曲が好評を博したことに気をよくしたジムロックが、ドヴォルザークに同様のヒット作を期待したためと考えられています。ヴァイオリンを能くしたドヴォルザークらしくヴァイオリンに重要な役割が与えられ、その活躍は 1.4 楽章で際立ちます。力強いメロディやピアノと弦楽器の緊密なアンサンブルも魅力的です。繊細な温もりで満ちた第 2 楽章や、ロマ風の憂いを帯びて様々な表情を見せる第 3 楽章でドヴォルザーク音楽の最良のものを聴くことができます。

(鉢村優)



Music Dialogue ディスカバリーシリーズ 2020-21 Vol.2

「字幕解説付きリハーサル」@中目黒 GT プラザホール

2020年9月9日(水) 18:30 開始

【曲目】 ドヴォルザーク： ピアノ四重奏曲 第 2 番 変ホ長調 作品 87
IV. Finale. Allegro ma non troppo

【出演】 上田晴子 (ピアノ)、土岐祐奈 (ヴァイオリン)、
大山平一郎 (ヴィオラ)、加藤文枝 (チェロ)

【解説】 小室敬幸 (音楽ライター/大学教員)、笹沼樹 (チェリスト)

【本日の流れ】 リハーサル (約 70 分)
ダイアローグ (約 20 分)

※リハーサル中に不思議に思ったことや解説者・演奏者に聞いてみたいことなどありましたら、ぜひ以下の URL か QR コードから質問を送信してください。リハーサル中から送信いただけます。

www.sli.do
⇒イベントコード「17412」を入力
もしくは右の QR コードを読み取って下さい



【主催】 一般社団法人 Music Dialogue

【協力】 日本音楽財団 (日本財団助成事業)

【認定】 公益社団法人 企業メセナ協議会



演奏者プロフィール



上田 晴子 Haruko Ueda [ピアノ]

パリ国立高等音楽院室内楽科助教授、ピアノ科准教授。東京芸術大学大学院修了。1986年、ロン・ティボーコンクール入賞。ソリスト、室内楽奏者として演奏活動を行う。共演する演奏家は、J.J.カントロフ、A・デュメイ、S・ルセフ、小林美恵、玉井菜摘(vn)など。録音は、ALM よりカントロフとのレコード藝術紙特選の「ドホナニ、エネスコ・ヴァイオリンソナタ集」「エネスコ、プゾーニ・ヴァイオリンソナタ」「ベートーヴェン・ヴァイオリンソナタ全曲集」など多数。2019年2月に姫路市文化芸術賞受賞。今秋、音楽之友社より室内楽ライブレッスンが単行本で発売予定。



土岐祐奈 Yuna Toki [ヴァイオリン]

千葉県生まれ。第6回ノヴォシビルスク国際ヴァイオリンコンクール第1位及び新曲賞受賞。第20回ニューヨーク SMF コンチェルトコンペティション第1位。第12回リプスキ・ヴィエニアフスキ青少年国際ヴァイオリンコンクール第1位。第82回日本音楽コンクール第3位。第83回同コンクール第2位。これまでに東京交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団等と共演の他、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」出演。桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業、同大学院修士課程修了。現在、ベルリン芸術大学大学院にてマーク・ゴトー二氏に師事。ヤマハ音楽奨学支援奨学生。ロームミュージックファンデーション奨学生。CHANEL Pygmalion Days アーティスト。Music Dialogue アーティスト。



大山 平一郎 Heiichiro Ohyama [ヴィオラ]

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972年マールボロ音楽祭にヴィオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミッシャ・マイルスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973年カリフォルニア大学助教授に就任。1979年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987年にプレヴンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project（米国サンタ・バーバラ）音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティスト・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。



加藤 文枝 Fumie Kato [チェロ]

京都市出身。2006年バリエコール・ノルマル音楽院に給付生として留学。2010年東京芸術大学音楽学部器楽科チェロ専攻卒業。学内にて、安宅賞、アカンサス賞、三菱地所賞受賞。2010・2011年サントリーホール室内楽アカデミー第1期生。2014年東京芸術大学大学院修士課程修了、アカンサス音楽賞受賞。パリ市立音楽院を満場一致の首席で卒業。第8回ピバホールチェロコンクール第1位。第7・8回東京音楽コンクール弦楽部門第2位。FLAME国際コンクール第3位。平成23年度京都市芸術文化特別奨励者。これまでに、故 杉山 寛、ドナルド・リッチャー、アラン・ムニエ、河野文昭、ラファエル・ピドゥの各氏に師事。また、室内楽を岡山潔、松原勝也、P.ルコール、E.ルサージュ、P.メイエの各氏に師事。財団法人地域創造による公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。Music Dialogue アーティスト。

Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2020 Vol.3

2020年11月30日(月) 19:00 開演 (18:30 開場) 本公演

【会場】めぐろパーシモンホール 大ホール (東急東横線【都立大学駅】より徒歩7分)

2020年11月28日(土) 18:30 開始 (18:00 開場) ※字幕解説付き公開リハーサル

【会場】中目黒 GT プラザホール (中目黒駅南口よりすぐ)

【出演】ベンジャミン・ペイルマン (ヴァイオリン)、水谷晃 (ヴァイオリン)、田原綾子 (ヴィオラ)、大山平一郎 (ヴィオラ)
笹沼樹 (チェロ)、金子鈴太郎 (チェロ)

【曲目】アレンスキー 弦楽四重奏曲 第2番 イ短調 作品35
チャイコフスキー 弦楽六重奏曲《フレンツェの思い出》作品70

【料金】本公演：一般4,000円 学生2,000円 リハーサル：一般2,000円 学生500円

【申込】パーシモンホールのチケットシステムにて、9月半ばより発売開始

<お知らせ> 今年6〜7月に開催したオンライン連続講座をオンデマンド(有料)でご視聴いただけるようになりました！

Music Dialogue オペッセイ・シリーズ「芸術を深める旅」 オンライン連続講座 Vol.1:

「芸術を自分の言葉で語るようになろう！」ナビゲーター：小室敬幸

第1回：文化・芸術の意味をきちんと理解する

第2回：音楽の歴史を正しく読み解く

<https://filmuy.com/musicdialogue>



今後のイベントについては Music Dialogue ウェブサイトをご覧ください！

www.music-dialogue.org

本日取り上げる作品について

◆ベートーヴェン：ロマンス第2番 op.50

ベートーヴェン 28歳の秋に書かれた作品。当時彼は故郷からウィーンに移住し、ピアニストとして活躍しながら作曲の修行を積んでいました。若きベートーヴェンはこうした独奏と管弦楽のための小品を通じて技術を高め、やがて協奏曲へ、交響曲へと歩みを進めていきました。

本作はモーツァルトなどの先輩を手本にしつつ、ベートーヴェンらしい雄渾さも聴かれる小品です。ゆったりと穏やかな雰囲気、短調が巧みに織り込まれ、曲の陰影を際立たせています。もともとヴァイオリン独奏と管弦楽のために作曲されましたが、本日演奏されるピアノとの二重奏版でも親しまれています。

◆ベートーヴェン：モーツァルトの「魔笛」から「恋を知る殿方には」の主題による7の変奏曲 WoO 46

1801年、ベートーヴェン 31歳の時に書かれたと考えられる作品です。作曲の動機は明らかではありませんが、重要な支援者であった伯爵に献呈されています。

変奏曲は題材となるメロディに内在する様々な要素を引き出し、それを豊かに展開する楽曲です。ベートーヴェンは変奏が得意で、生涯にわたって変奏曲を作り続けました。本作のように独立した変奏曲だけでなく、ピアノソナタや交響曲、協奏曲といった大規模な作品の中でもよく登場します。

この作品は演奏時間こそ約10分と短いものの、ベートーヴェンのたくみな変奏の技術が駆使された充実の作品です。若い時期に書かれた変奏曲の中でもとりわけ重要な作品と考えられています。主題には、モーツァルトのオペラ『魔笛』の第一幕で登場するメロディが使われています。「恋を知る男性なら心はとても温かいはず。恋をしよう、恋人になるのは素晴らしい」と歌う明るく素朴な二重唱です。全体は主題と7つの変奏、終結部で構成され、唯一短調になる第四変奏が折り返し地点になっています。

◆ドヴォルザーク：ピアノ四重奏曲第2番 変ホ長調 作品87

チェコの小さな村で宿屋兼肉屋の息子として生まれたドヴォルザーク (1841-1904)は、豊穣な民俗音楽の伝統の中で育ちました。踊りと歌を愛する人々に混じって宿屋でヴァイオリンを弾く中で、ドヴォルザーク特有の朗らかな楽想が養われています。

彼はチェコの音楽を自作に取り入れました。その際ドヴォルザークは民俗音楽のメロディやリズムを直接用いるのではなく、それらがもつ和声の特徴を取り出したり旋律をアレンジしたりして取り入れています。また、伝統的で均整のとれた形式を大切にしながらドヴォルザークの特徴です。

そうした作風の立役者となったのが8歳年上の作曲家ブラームスでした。ドヴォルザークはブラームスの推薦によって奨学金を得、出版社に紹介してもらったことで作曲家としての地位を確立することができました。ドヴォルザークはベートーヴェンとブラームスの作品を研究することで主題を巧みに展開する技術を身につけ、整った形式の中でリズムやメロディを自在に遊ばせることが出来るようになったのです。

本作は出版社ジムロックの依頼で書かれました。ブラームスのピアノ四重奏曲が好評を博したことに気をよくしたジムロックが、ドヴォルザークに同様のヒット作を期待したためと考えられています。ヴァイオリンを能くしたドヴォルザークらしくヴァイオリンに重要な役割が与えられ、その活躍は1.4楽章で際立ちます。力強いメロディやピアノと弦楽器の緊密なアンサンブルも魅力的です。繊細な温もりで満ちた第2楽章や、ロマ風の憂いを帯びて様々な表情を見せる第3楽章でドヴォルザーク音楽の最良のものを聴くことができます。

(鉢村優)



Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ Vol.2

加賀町ホール

2020年9月12日(土) 14:00 & 17:30 開演

プログラム

◆L.ベートーヴェン：ロマンス第2番 長調 Op.50

土岐祐奈 (ヴァイオリン)、上田晴子 (ピアノ)

◆L.ベートーヴェン：モーツァルトの「魔笛」から「恋を知る殿方には」の主題による7の変奏曲 WoO 46

加藤文枝 (チェロ)、上田晴子 (ピアノ)

◆A.ドヴォルザーク：ピアノ四重奏曲第2番 変ホ長調 作品87

I. Allegro con fuoco

II. Lento

III. Allegro moderato, grazioso - Un pochettino più mosso

IV. Finale. Allegro ma non troppo

上田晴子 (ピアノ)、土岐祐奈 (ヴァイオリン)、大山平一郎 (ヴァイオリン)、加藤文枝 (チェロ)

◆お客様とのダイアログ (17:30 公演のみ)

14:00 公演にお越しの方は、18:45 頃からライブ配信にて、以下の URL にてご視聴いただけます

<https://youtu.be/O2nkqRPwfDQ>

※演奏者に聞いてみたいことなどありましたらぜひ以下の URL か QR コードから質問を送信してください。

www.sli.do

イベントコード#「32585」を入力

もしくは右の QR コードを読み取ってください。



【共催】 一般社団法人 Music Dialogue

【協力】 日本音楽財団 (日本財団助成事業)

【認定】 公益社団法人 企業メセナ協議会



演奏者プロフィール



上田 晴子 Haruko Ueda [ピアノ]

パリ国立高等音楽院室内楽科助教授、ピアノ科准教授。東京芸術大学大学院修了。1986年、ロン・ティボーコンクール入賞。ソリスト、室内楽奏者として演奏活動を行う。共演する演奏家は、J.J.カントロフ、A・デュメイ、S・ルセフ、小林美恵、玉井菜摘(Vn)など。録音は、ALMよりカントロフとのレコード「ドホナニ、エネスコ・ヴァイオリンソナタ集」「エネスコ、プゾーニ・ヴァイオリンソナタ」「ベートーヴェン・ヴァイオリンソナタ全曲集」など多数。2019年2月に姫路市文化芸術賞受賞。今秋、音楽之友社より室内楽ライブレッスンが単行本で発売予定。



土岐祐奈 Yuna Toki [ヴァイオリン]

千葉県生まれ。第6回ノヴォシビルスク国際ヴァイオリンコンクール第1位及び新曲賞受賞。第20回ニューヨークSMFコンチェルトコンペティション第1位。第12回リンスキ・ヴェニアフスキ青少年国際ヴァイオリンコンクール第1位。第82回日本音楽コンクール第3位。第83回同コンクール第2位。これまでに東京交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団等と共演の他、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」出演。桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業、同大学院修士課程修了。現在、ベルリン芸術大学大学院にてマーク・ゴトーニ氏に師事。ヤマハ音楽奨学支援奨学生。ロームミュージックファンデーション奨学生。CHANEL Pygmalion Days アーティスト。Music Dialogue アーティスト。



大山 平一郎 Heiichiro Ohyama [ヴィオラ]

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972年マールボロ音楽祭にヴィオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミシヤ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973年カリフォルニア大学助教授に就任。1979年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project（米国サンタ・バーバラ）音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティスト・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。



加藤 文枝 Fumie Kato [チェロ]

京都市出身。2006年パリエールノルマル音楽院に給付生として留学。2010年東京芸術大学音楽学部器楽科チェロ専攻卒業。学内にて、安宅賞、アカンサス賞、三菱地所賞受賞。2010・2011年サントリーホール室内楽アカデミー第1期生。2014年東京芸術大学大学院修士課程修了、アカンサス音楽賞受賞。パリ市立音楽院を満場一致の首席で卒業。第8回ピパホールチェロコンクール第1位。第7・8回東京音楽コンクール弦楽部門第2位。FLAME国際コンクール第3位。平成23年度京都市芸術文化特別奨励者。これまでに、故 杉山 實、ドナルド・リッチャー、アラン・ムニエ、河野文昭、ラファエル・ビドゥの各氏に師事。また、室内楽を岡山潔、松原勝也、P.ルコール、E.ルサージュ、P.メイエの各氏に師事。財団法人地域創造による公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。Music Dialogue アーティスト。

山岸園子 Sonoko Yamagishi [司会]

聖心女子大学文学部歴史社会学科卒業。グロービス経営大学院（MBA）修了。株式会社リンクアンドモチベーションにて、人材育成や組織風土改革に関する業務に従事。若年層向け教育サービスを提供する新会社立ち上げを担当した。その後株式会社グロービスに入社し、現在は経営大学院／グロービス・マネジメント・スクールにて、マーケティング・学生募集部門の戦略立案やチームマネジメントを担当している。12歳からヴィオラを始め、現在もアマチュアオーケストラなどで演奏している。

Music Dialogue の活動をご支援くださっている団体や個人の皆様に心よりお礼申し上げます。

Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2020 Vol.3

本公演： 2020年11月30日（月）19:00開演（18:30開場）

公開リハーサル：2020年11月28日（土）18:30開始

【会場】 めぐろパーシモンホール（東急東横線【都立大学駅】より徒歩7分）

【出演】 ベンジャミン・ペイルマン（ヴァイオリン）、水谷晃（ヴァイオリン）、田原綾子（ヴィオラ）、大山平一郎（ヴィオラ） 笹沼樹（チェロ）、金子鈴木太郎（チェロ）

【曲目】 アレンスキー 弦楽四重奏曲 第2番 イ短調 作品35
チャイコフスキー 弦楽六重奏曲《フィレンツェの思い出》作品70

【料金】 一般4,000円 学生2,000円

【申込】 9月中旬発売開始

今後のイベントについては Music Dialogue ウェブサイトをご覧ください！

www.music-dialogue.org

◆作品解説

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：弦楽六重奏曲《フィレンツェの思い出》作品 70

ロシアの辺境で凍てつく大地と長い冬に囲まれて育ったチャイコフスキー（1840 - 1893）は、光あふれる南欧に憧れます。長じて作曲家として成功した彼はヨーロッパ中を旅するようになり、旅先の文化や風土、そしてそこから得た新鮮な印象を創作の糧にしました。なかでもたびたび滞在したイタリア、フィレンツェには特別な思い出がありました。愛らしく静かなこの街で散歩と読書、観劇そして創作に明け暮れた日々。世を去る3年前に書かれたこの六重奏には、懐かしい街を思う切なさがあふれています。この弦楽六重奏曲はチャイコフスキーがペテルブルクの室内楽協会の名誉会員に選ばれたことをきっかけに作曲され、同協会に献呈されています。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロがそれぞれ2本という編成での作曲は困難をきわめ、完成には中断を挟みながら3年を要しました。自信のある管弦楽曲として作曲してから六重奏に編曲するという手順も踏んでいます。完成後にはヴァイオリン奏者の友人に長く詳細な手紙を送り、演奏しにくいところはないか、直すならばどうすれば良いかと尋ねました。そのうえ完成から2年後に改訂されており、チャイコフスキーの呻吟のほどが窺われます。大変な難産の末に生まれた作品ながら、彼の円熟した作曲技法が惜しみなく注がれた、様々な音楽的内容を楽しめる作品です。

（鉢村優）

次回公演のお知らせ

Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2020-21 Vol.4

2021年1月22日（金）19：00 開演 本公演

【会場】加賀町ホール（大江戸線牛込柳町駅から徒歩5分）

2021年1月19日（火）18：30 開演 字幕解説付き公開リハーサル

【会場】中目黒 GT プラザホール

【曲目】ショスタコーヴィチ／アトフマン編曲 2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品

フランク ピアノ五重奏曲

【出演】吉見友貴（ピアノ）、毛利文香（ヴァイオリン）、大塚百合菜（ヴァイオリン）

大山平一郎（ヴィオラ）、加藤文枝（チェロ）

【申込】 パスマーケット WEB サイトより順次開始予定

※プログラムや出演者は都合により変更になる場合があります



Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ Vol.3

@中目黒 GT プラザホール

2020年11月28日（土）18：30 開始

プログラム

◆ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：弦楽六重奏曲《フィレンツェの思い出》作品 70

Peter Ilyich Tchaikovsky : Souvenir de Florence, Op.70

3. Allegro moderato

4. Allegro vivace

水谷晃（ヴァイオリン）、坪井夏美（ヴァイオリン）、田原綾子（ヴィオラ）
大山平一郎（ヴィオラ）、笹沼樹（チェロ）、金子鈴木太郎（チェロ）

◆お客様とのダイアログ

演奏者に聞いてみたいことや感想などを右下の QR コードから投稿してください。

リハーサル中から投稿いただけます。

※QRコードの読み取りが難しい場合には

インターネットにて「sli.do」と検索→イベントコード「67900」をご入力ください。



【共催】一般社団法人 Music Dialogue

【協力】日本音楽財団（日本財団助成事業）

【認定】公益社団法人 企業メセナ協議会



演奏者プロフィール



水谷 晃 Akira Mizutani [ヴァイオリン]

大分市生まれ。桐朋学園大学を首席で卒業。ヴァイオリンを小林健次氏、室内楽を原田幸一郎・毛利伯郎の各氏と東京クワルテットに師事。在学中 Verus String Quartet を結成し、第 57 回ミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門で第三位入賞。2010 年 4 月より国内最年少のコンサートマスターとして群馬交響楽団コンサートマスターに就任。2013 年 4 月より東京交響楽団コンサートマスター。2018 年 6 月よりオーケストラアンサンブル金沢客員コンサートマスターを兼任。桐朋学園大学非常勤講師。Music Dialogue アーティスト。



坪井夏美 Tsuboi Natsumi [ヴァイオリン]

第 12 回東京音楽コンクール第 1 位及び聴衆賞受賞。マイケルヒル国際コンクール、クライスラー国際コンクール、日本音楽コンクール等にて入賞。ソリストとして読響、都響、新日本フィル、東京フィル等のオーケストラと共演。Chanel Pygmalion Days 2018 アーティスト。ウィーン私立音楽芸術大学修士課程修了し、現在東京芸術大学修士課程に在籍。2019 年 7 月より東京フィルハーモニー交響楽団 第 1 ヴァイオリンファオアシピラー。



大山 平一郎 Heiichiro Ohyama [ヴィオラ]

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972 年マールボロ音楽祭にヴァイオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミシヤ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973 年カリフォルニア大学助教授に就任。1979 年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987 年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project（米国サンタ・バーバラ）音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティストティック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督



田原綾子 Ayako Tahara [ヴァイオリン]

東京音楽コンクール、ルーマニア国際音楽コンクール優勝。読売日響、東響、東京フィル等と共演、室内楽奏者としても国内外の著名アーティストと多数共演する他、オーケストラの客演首席も務めるなど、活躍の幅を広げている。パリ・エコールノルマル音楽院にてブルーノ・バスキエ氏、デトモルト音楽大学にてファイト・ヘルテンシュタイン氏に師事。桐朋学園大学院大学特待生、2019 年度明治安田 QOL 文化財団海外留学研修生。サントリー芸術財団より Paolo Antonio Testore を貸与。



金子 鈴太郎 Rintaro Kaneko [チェロ]

桐朋学園ソリスト・ディプロマコースを経て、ハンガリー国立リスト音楽院に学ぶ。国内外のコンクールで優勝、入賞。2003 年～2007 年 大阪交響楽団首席チェロ奏者、2007 年～2008 年 大阪交響楽団特別首席チェロ奏者。現在は各オーケストラにゲスト首席として招聘されるほか、サイトウ・キネン・オーケストラ等で活躍中。トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ首席、Super Trio 3℃、長岡京室内アンサンブル、東京ロックプレイヤーズ 各メンバー。Music Dialogue アーティスト。オフィシャルサイト <http://rintaro.online.fr/>（写真 ©Nobuo MIKAWA）



笹沼 樹 Tatsuki Sasanuma [チェロ]

全日本学生音楽コンクール、東京音楽コンクール、日本音楽コンクールをはじめとする国内のコンクールで優勝、入賞後、カルテット・アマビレのメンバーでの国内外の主要コンクールで受賞歴を多数持つ。ソリストとして新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団をはじめとするオーケストラと共演。2017 年学習院大学文化活動賞受賞。同校でのリサイタルは天覧公演となり、毎年開催されている。桐朋学園ソリスト・ディプロマコース修了。学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科、桐朋学園大学音楽学部大学院卒業。堤剛氏に師事。CHANEL Pygmalion Artist。Music Dialogue アーティスト。日本コロムビアよりデビューアルバム『親愛の言葉』をリリース。使用楽器は 1771 年製 C.F.Landorfi（宗次コレクション）。

◆作品解説

アントン・ステパノヴィチ・アレンスキー：弦楽四重奏曲 第 2 番 イ短調 作品 35

Anton Stepanovich Arensky : String Quartet No.2, Op.35

アレンスキー（1861-1906）はチャイコフスキーの一つ下の世代にあたる作曲家です。ペテルブルク音楽院でリムスキー＝コルサコフに師事しましたが、チャイコフスキーを深く敬愛し、彼の作風をより強く引き継ぎました。アレンスキーは創作活動のかたわらモスクワ音楽院で教鞭をとり、ラフマニノフやスクリャーピンといった優れた弟子を育てました。

1895年に完成した本作はチャイコフスキーの急逝を受けて書かれた作品で、彼の思い出に捧げられています。なかでも第 2 楽章はチャイコフスキーの歌曲「伝説」の旋律を主題に用いた長大な変奏曲です。この楽章は後に『チャイコフスキーの主題による変奏曲』として弦楽合奏用に編曲されました。長大な変奏曲というアイデアも、チャイコフスキー自身が友人を悼んで書いたピアノ三重奏曲『偉大な芸術家の思い出に』第 2 楽章にならったものと考えられています。弦楽四重奏は本来ヴァイオリン 2 本、ヴィオラ 1 本、チェロ 1 本という編成を取りますが、本作はヴァイオリン 1、ヴィオラ 1、チェロ 2 という変則的な組み合わせです。中低音域に音が集中することで重厚な音色が引き出されています。

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：弦楽六重奏曲「フィレンツェの思い出」Op.70

Piotr Ilyich Tchaikovsky : Souvenir de Florence, Op.70

ロシアの辺境で凍てつく大地と長い冬に囲まれて育ったチャイコフスキー（1840-1893）は、光あふれる南欧に憧れます。長じて作曲家として成功した彼はヨーロッパ中を旅するようになり、旅先の文化や風土、そしてそこから得た新鮮な印象を創作の糧にしました。なかでもたびたび滞在したイタリア、フィレンツェには特別な思い出がありました。愛らしく静かなこの街で散歩と読書、観劇そして創作に明け暮れた日々。世を去る 3 年前に書かれたこの六重奏には、懐かしい街を思う切なさがあふれています。

この弦楽六重奏曲はチャイコフスキーがペテルブルクの室内楽協会の名誉会員に選ばれたことをきっかけに作曲され、同協会に献呈されています。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロがそれぞれ 2 本という編成での作曲は困難をきわめ、完成には中断を挟みながら 3 年を要しました。自信のある管弦楽曲として作曲してから六重奏に編曲するという手順も踏んでいます。完成後にはヴァイオリン奏者の友人に長く詳細な手紙を送り、演奏しにくいところはないか、直すならばどうすれば良いかと尋ねました。そのうえ完成から 2 年後に改訂されており、チャイコフスキーの呻吟のほどが窺われます。大変な難産の末に生まれた作品ながら、彼の円熟した作曲技法が惜しみなく注がれた、様々な音楽的内容を楽しめる作品です。

（鉢村優）



Music Dialogue デイスカバリー・シリーズ Vol.3

めぐるパーシモンホール 小ホール

2020年11月30日（月）開演 19:00

プログラム

◆アントン・ステパノヴィチ・アレンスキー：弦楽四重奏曲 第 2 番 イ短調 作品 35

Anton Stepanovich Arensky : String Quartet No.2, Op.35

1. Moderato
2. Variations sur un thème de P. Tchaikovsky. Moderato
3. Finale. Andante sostenuto
水谷晃（ヴァイオリン）、田原綾子（ヴィオラ）、金子鈴木太郎（チェロ）、笹沼樹（チェロ）

◆ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：弦楽六重奏曲「フィレンツェの思い出」Op.70

Piotr Ilyich Tchaikovsky : Souvenir de Florence, Op.70

1. Allegro con spirito
2. Adagio cantabile e con moto
3. Allegro moderato
4. Allegro vivace
水谷晃（ヴァイオリン）、坪井夏美（ヴァイオリン）、田原綾子（ヴィオラ）、
大山平一郎（ヴィオラ）、笹沼樹（チェロ）、金子鈴木太郎（チェロ）

◆お客様とのダイアローグ

※演奏者に聞いてみたいことなどありましたらぜひ以下の方法で QR コードから質問を送信してください。

インターネットにて「sli.do」と検索→イベントコード「70223」をご入力ください。



Music Dialogue would like to dedicate this concert to the great cellist and our dear friend, Alexander Buzlov, who passed away on November 8.

【共催】 一般社団法人 Music Dialogue
【協力】 日本音楽財団（日本財団助成事業）
【認定】 公益社団法人 企業メセナ協議会



演奏者プロフィール



水谷 晃 Akira Mizutani [ヴァイオリン]

大分市生まれ。桐朋学園大学を首席で卒業。ヴァイオリンを小林健次氏、室内楽を原田幸一郎・毛利伯郎の - 各氏と東京クワルテットに師事。在学中 Verus String Quartet を結成し、第 57 回ミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門で第三位入賞。2010 年 4 月より国内最年少のコンサートマスターとして群馬交響楽団コンサートマスターに就任。2013 年 4 月より東京交響楽団コンサートマスター。2018 年 6 月よりオーケストラアンサンブル金沢客員コンサートマスターを兼任。桐朋学園大学非常勤講師。Music Dialogue アーティスト。



坪井夏美 Tsuboi Natsumi [ヴァイオリン]

第 12 回東京音楽コンクール第 1 位及び聴衆賞受賞。マイケルヒル国際コンクール、クライスター国際コンクール、日本音楽コンクール等にて入賞。ソリストとして読響、都響、新日本フィル、東京フィル等のオーケストラと共演。Chanel Pygmalion Days 2018 アーティスト。ウィーン私立音楽芸術大学修士課程修了し、現在東京芸術大学修士課程に在籍。2019 年 7 月より東京フィルハーモニー交響楽団 第 1 ヴァイオリンファオアシピラー。



大山 平一郎 Heichiro Ohyama [ヴィオラ]

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972 年マールボロ音楽祭にヴィオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミッシャ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973 年カリフォルニア大学助教に就任。1979 年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987 年にブレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero

Theatre Chamber Music Project (米国サンタ・バーバラ) 音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティスト・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督



田原綾子 Ayako Tahara [ヴィオラ]

東京音楽コンクール、ルーマニア国際音楽コンクール優勝。読売日響、東響、東京フィル等と共演、室内楽奏者としても国内外の著名アーティストと多数共演する他、オーケストラの客演首席も務めるなど、活躍の幅を広げている。パリ・エコールノルマル音楽院にてブルーノ・パスキエ氏、デトモルト音楽大学にてファイト・ヘルテンシュタイン氏に師事。桐朋学園大学院大学特待生、2019 年度明治安田 QOL 文化財団海外留学研修生。サントリー芸術財団より Paolo Antonio Testore を貸与。



金子 鈴太郎 Rintaro Kaneko [チェロ]

桐朋学園ソリスト・ディプロマコースを経て、ハンガリー国立リスト音楽院に学ぶ。国内外のコンクールで優勝、入賞。2003 年～2007 年 大阪交響楽団首席チェロ奏者、2007 年～2008 年 大阪交響楽団特別首席チェロ奏者。現在は各オーケストラにゲスト首席として招聘されるほか、サイトウ・キネン・オーケストラ等で活躍中。トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ 首席、Super Trio 3℃、長岡京室内アンサンブル、東京バロックプレーヤーズ 各メンバー。Music Dialogue アーティスト。公式サイト <http://rintaro.online.fr/> (写真 ©Nobuo MIKAWA)



笹沼 樹 Tatsuki Sasanuma [チェロ]

全日本学生音楽コンクール、東京音楽コンクール、日本音楽コンクールをはじめとする国内のコンクールで優勝、入賞後、カルテット・アマビシのメンバーでの国内外の主要コンクールで受賞歴を多数持つ。ソリストとして新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団をはじめとするオーケストラと共演。2017 年学習院大学文化活動賞受賞。同校でのリサイタルは天覧公演となり、毎年開催されている。桐朋学園ソリスト・ディプロマコース修了。学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科、桐朋学園大学音楽学部大学院卒業。堤剛氏に師事。CHANEL Pygmalion Artist、Music Dialogue アーティスト。日本コロムビアよりデビューアルバム『親愛の言葉』をリリース。使用楽器は 1771 年製 C.F.Landorfi (宗次コレクション)。

山岸園子 Sonoko Yamagishi [司会]

聖心女子大学文学部歴史社会学科卒業。グロービス経営大学院 (MBA) 修了。株式会社リンクアンドモチベーションにて、人材育成や組織風土改革に関する業務に従事。若年層向け教育サービスを提供する新会社立ち上げを担当した。その後株式会社グロービスに入社し、現在は経営大学院 / グロービス・マネジメント・スクールにて、マーケティング・学生募集部門の戦略立案やチームマネジメントを担当している。12 歳からヴィオラを始め、現在もアマチュアオーケストラなどで演奏している。

◇次回公演のお知らせ◇ Music Dialogue ディスカバリーシリーズ 2020-21 Vol.4

- ・本公演： 2021 年 1 月 21 日 (木) 19:00 開演 本公演
【会場】 加賀町ホール(大江戸線牛込柳町駅から徒歩 5 分)
- ・字幕解説付き公開リハーサル： 2021 年 1 月 19 日 (火) 18:30 開始
【会場】 中目黒 GT ブラザホール (中目黒駅南口よりすぐ)
【曲目】 ショスタコーヴィチ / アトフミヤン編曲 2 つのヴァイオリンとピアノのための 5 つの小品
フランク ピアノ五重奏曲
【出演】 吉見友貴 (ピアノ)、毛利文香 (ヴァイオリン)、大塚百合菜 (ヴァイオリン)
大山平一郎 (ヴィオラ)、加藤文枝 (チェロ)
- 【申込】 <https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/0154g011akh0s.html>



◆作品解説

フランク ピアノ五重奏曲 / Franck: Piano Quintet in F minor

フランク（1822-1890）はベルギーで生まれパリで活躍した作曲家・オルガニスト。作曲家としての功績をあえて一言でまとめると、ドイツ音楽とフランス音楽を融合させて新たな境地を開いたことです。

50代後半を迎えたフランクは鍵盤楽器奏者、作曲家、指導者として充実した日々を送っていました。特に1873年から教鞭をとったパリ音楽院オルガン科教授としての経験は作曲家フランクにとって重要な意味を持ちました。フランクはダンディ、ショーソン、デュバルクといったすぐれた弟子たちを愛情深く指導するだけでなく、作曲でつまづいたときはいつも彼らに意見を求めました。そんな師を弟子たちは「パパ・フランク」と呼び、深く敬愛したといえます。こうしてフランクは弟子たちから多大な影響を受け、創作を豊かにしていったのです。

こうした環境のなか 1879年に完成した本作は、やがてフランクの代名詞となる「循環形式」で書かれた最初期の作品です。循環形式はひとつのモチーフを様々に変化させながら、楽曲を通じて登場させることで作品に有機的なまとまりや一貫性をもたせる手法です。その後フランクは循環形式を使い続け、彼の最高傑作として知られる「ヴァイオリン・ソナタ」（1886年）や「交響曲二短調」（1888年）といった作品が生まれました。なお、本作は初演を担当したピアニスト・作曲家のサン＝サーンスに献呈されています。（鉢村優）

楽譜をこちらから無料でダウンロードいただけます。ぜひご参照ください



＜お知らせ＞ 昨年開催したオンライン連続講座をオンデマンドでご視聴いただけるようになりました！

Music Dialogue オデッセイ・シリーズ「芸術を探求する旅」オンライン連続講座 Vol. 1

「芸術を自分の言葉で語れるようになろう！」ナビゲーター：小室敬幸

第1回：文化・芸術の意味をきちんと理解する

第2回：音楽の歴史を正しく読み解く

<https://filmuy.com/musicdialogue>

今後のイベントについては Music Dialogue ウェブサイトをご覧ください！

www.music-dialogue.org



Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ Vol.4

@中目黒 GT プラザホール

2020年1月19日（火）18：30 開始

プログラム

◆曲目

フランク ピアノ五重奏曲 / Franck: Piano Quintet in F minor

I. Molto moderato quasi lento

◆出演

吉見友貴（ピアノ）、毛利文香（ヴァイオリン）、大塚百合菜（ヴァイオリン）、大山平一郎（ヴィオラ）、加藤文枝（チェロ）

◆解説

石上真由子（ヴァイオリニスト）、笹沼樹（チェリスト）

【お客様とのダイアログについて】

演奏者に聞いてみたいことや感想などを右下の QR コードから投稿してください。

リハーサル中から投稿いただけます。

※QR コードの読み取りが難しい場合には

インターネットにて「sli.do」と検索→イベントコード「54176」をご入力ください。



【主催】 一般社団法人 Music Dialogue

【協力】 日本音楽財団（日本財団助成事業）

【認定】 公益社団法人 企業メセナ協議会



演奏者プロフィール



毛利 文香 Fumika Mohri [ヴァイオリン]

第8回ソウル国際音楽コンクール第1位、第54回パガニーニ国際ヴァイオリンコンクール第2位、エリザベート王妃国際音楽コンクール2015第6位、モントリオール国際音楽コンクール2019第3位。横浜文化賞文化・芸術奨励賞、ホテルオークラ音楽賞など受賞多数。桐朋学園大学ソリストディプロマコース修了、慶應義塾大学文学部卒業。これまでに、田尻かをり、水野佐知香、原田幸一郎の各氏に師事。現在、ドイツ・クロンベルクアカデミーにてミハエラ・マーティン氏のもと研鑽を積んでいる。



大塚 百合菜 Yurina Otsuka [ヴァイオリン]

桐朋学園女子高等学校を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。その後渡独し、リューベック音楽大学大学院修了、演奏家課程を経てドイツ国家演奏家資格取得。これまでに佐藤明美、辰巳明子、トーマス・ブランディス、ダニエル・ゼベックの各氏に師事。第59回全日本学生音楽コンクール第1位。第6回シュポア国際コンクール(ドイツ)特別賞。東京フィルハーモニー交響楽団、プフォルツハイム室内管弦楽団、リューベックフィルハーモニー交響楽団等と共演。CHANEL PYGMALION DAYS 参加アーティスト。2019年度紀尾井ホール管弦楽団シーズンメンバー。



大山 平一郎 Heiichiro Ohyama [ヴィオラ]

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972年マールボロ音楽祭にヴァイオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミシヤ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973年カリフォルニア大学助教授に就任。1979年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project（米国サンタ・バーバラ）音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティストック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。



加藤 文枝 Fumie Kato [チェロ]

京都市出身。2006年パリエコールノルマル音楽院に給付生として留学。2010年東京芸術大学音楽学部器楽科チェロ専攻卒業。学内にて、安宅賞、アカンサス賞、三菱地所賞受賞。2010・2011年サントリーホール室内楽アカデミー第1期生。2014年東京芸術大学大学院修士課程修了、アカンサス音楽賞受賞。パリ市立音楽院を満場一致の首席で卒業。第8回ビバホールチェロコンクール第1位。第7・8回東京音楽コンクール弦楽部門第2位。FLAME国際コンクール第3位。平成23年度京都市芸術文化特別奨励者。これまでに、故 杉山 實、ドナルド・リッチャー、アラン・ムニエ、河野文昭、ラファエル・ビドゥの各氏に師事。また、室内楽を岡山潔、松原勝也、P.ルコール、E.ルサージュ、P.メイイの各氏に師事。財団法人地域創造による公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。Music Dialogue アーティスト。



吉見 友貴 Yuki Yoshimi [ピアノ]

2000年生まれ。高校2年在学中、第86回日本音楽コンクールで最年少優勝を果たす。CHANEL Pygmalion Days 2019年度アーティスト。これまでに東響、東京シティ・フィル、東フィル、新日本フィル、神奈川フィル等と共演。現在、ニューイングランド音楽院(ボストン)に奨学生として在学中。アレクサンダー・ゴルサンティア、上野久子の各氏に師事。2019年、2020年度ローム・ミュージックファンデーション奨学生。

@Imura Shigeto

◇次回公演のお知らせ◇Music Dialogue ディスカバリーシリーズ 2020-21 Vol.5

- ・**本公演**： 2021年3月5日(金) 19:00 開演 本公演
【会場】 加賀町ホール(大江戸線牛込柳町駅から徒歩5分)
- ・**字幕解説付き公開リハーサル**： 2021年3月2日(火) 18:30 開始
【会場】 中目黒 GT プラザホール (中目黒駅南口よりすぐ)
【曲目】 ドヴォルザーク テルツェット (弦楽三重奏曲) 作品 74
ドヴォルザーク 弦楽五重奏曲 変木長調 作品 97
【出演】 城戸かれん (ヴァイオリン)、谷本華子 (ヴァイオリン)、中恵菜 (ヴァイオリン)
大山平一郎 (ヴィオラ)、柴田花音 (チェロ)





◆作品解説

ドミトリー・ショスタコーヴィチ／レヴォン・アトフミャン編曲 2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品

Shostakovich (arr. L. Atovmyan): 5 Pieces for 2 Violins and Piano

ソヴィエト連邦の作曲家ショスタコーヴィチ（1906-1975）は、生涯の大半を政府との緊張の中で過ごしました。政府はすべての芸術を管理し、「革命の役に立たない」芸術家を容赦なく迫害しました。ショスタコーヴィチ自身もたびたび辛酸をなめ、経済的にも政治的にも生活が危うくなります。

そうした中で彼の生計を支えたのは映画音楽や舞台のための音楽でした。特に全部で35曲に登る映画音楽はショスタコーヴィチの作品群で重要な一角を占めています。その背景にはソヴィエトの豊かな映画産業がありました。政府はプロパガンダの手法として、そしてハリウッドへの対抗心を背景に純粋な芸術としても映画を重視していたのです。

本作はこうした作品を編曲家アトフミャンが室内楽にアレンジしたものです。彼はショスタコーヴィチの友人で、長年にわたってショスタコーヴィチ作品を様々な編成に編曲し、演奏機会と収入源を生み出して支えとなりました。I.プレリュードは映画音楽『馬あぶ』（1955）、II.ガヴョットとIII.エレジーは劇付随音楽『人間喜劇』（1933-34）、IV.ワルツは映画音楽『司祭と召使イシアタマの物語』（1933-34）、V.ポルカはバレエ音楽『明るい小川』（1934-35）に基づいています。

セザール・フランク：ピアノ五重奏曲

Franck: Piano Quintet in F minor

フランク（1822-1890）はベルギーで生まれパリで活躍した作曲家・オルガニスト。作曲家としての功績をあえて一言でまとめると、ドイツ音楽とフランス音楽を融合させて新たな境地を開いたことです。

50代後半を迎えたフランクは鍵盤楽器奏者、作曲家、指導者として充実した日々を送っていました。特に1873年から教鞭をとったパリ音楽院オルガン科教授としての経験は作曲家フランクにとって重要な意味を持ちました。フランクはダンディ、ショーソン、デュバルクといったすぐれた弟子たちを愛情深く指導するだけでなく、作曲でつまづいたときはいつも彼らに意見を求めました。そんな師を弟子たちは「パパ・フランク」と呼び、深く敬愛したといえます。こうしてフランクは弟子たちから多大な影響を受け、創作を豊かにしていったのです。

こうした環境のなか1879年に完成した本作は、やがてフランクの代名詞となる「循環形式」で書かれた最初期の作品です。循環形式はひとつのモチーフを様々な変化させながら、楽曲を通じて登場させることで作品に有機的なまとまりや一貫性をもたせる手法です。その後フランクは循環形式を使い続け、彼の最高傑作として知られる「ヴァイオリン・ソナタ」（1886年）や「交響曲二短調」（1888年）といった作品が生まれました。なお、本作は初演を担当したピアニスト・作曲家のサン＝サーンスに献呈されています。

（鉢村優）

<お知らせ：昨年開催したオンライン連続講座をオンデマンドでご視聴いただけるようになりました>

Music Dialogue オデッセイ・シリーズ「芸術を探求する旅」オンライン連続講座 Vol.1

「芸術を自分の言葉で語れるようになるう！」ナビゲーター：小室敬幸

<https://filmuy.com/musicdialogue>



Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2020-2021 Vol.4

加賀町ホール

2021年1月21日（木）開演 19:00

プログラム

◆ショスタコーヴィチ／アトフミャン編曲 2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品

Shostakovich (arr. L. Atovmyan) / 5 Pieces for 2 Violins and Piano

- | | |
|---|-------------------------------------|
| I. Prelude. Moderato | IV. Waltz. Tempo di valse, moderato |
| II. Gavotte. Tranquillo, molto leggiero | V. Polka. Vivace |
| III. Elegy. Andantino | |

大塚百合菜（ヴァイオリン）、毛利文香（ヴァイオリン）、吉見友貴（ピアノ）

◆フランク／ピアノ五重奏曲

Franck / Piano Quintet in F minor

- I. Molto moderato quasi lento
- II. Lento, con molto sentimento
- III. Allegro non troppo, ma con fuoco

吉見友貴（ピアノ）、毛利文香（ヴァイオリン）、大塚百合菜（ヴァイオリン）
大山平一郎（ヴィオラ）、加藤文枝（チェロ）

◆お客様とのダイアログ

※演奏者に聞いてみたいことなどありましたらぜひ以下の方法がQRコードから質問を送信してください。

インターネットにて「sli.do」と検索→イベントコード「25259」をご入力ください。



【主催】一般社団法人 Music Dialogue
【協力】日本音楽財団（日本財団助成事業）
【認定】公益社団法人 企業×セナ協議会



演奏者プロフィール



大塚 百合菜 Yurina Otuka [ヴァイオリン]

桐朋学園女子高等学校を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。その後渡独し、リューベック音楽大学大学院修了、演奏家課程を経てドイツ国家演奏家資格取得。これまでに佐藤明美、辰巳明子、トーマス・ブランディス、ダニエル・ゼバックの各氏に師事。第59全日本学生音楽コンクール第1位。第6回シュポア国際コンクール(ドイツ)特別賞。東京フィルハーモニーオーケストラ、プフォルツハイム室内管弦楽団、リューベックフィルハーモニーオーケストラ等と共演。CHANEL PYGMLION DAYS 参加アーティスト。2019年度紀尾井ホール管弦楽団シーズンメンバー。



毛利 文香 Fumika Mohri [ヴァイオリン]

第8回ソウル国際音楽コンクール第1位、第54回パガニーニ国際ヴァイオリンコンクール第2位、エリザベト王妃国際音楽コンクール2015第6位、モンリオール国際音楽コンクール2019第3位。横浜文化賞文化・芸術奨励賞、ホテルオークラ音楽賞など受賞多数。桐朋学園大学ソリストディプロマコース修了、慶應義塾大学文学部卒業。これまでに、田尻かをり、水野佐知香、原田幸一郎の各氏に師事。現在、ドイツ・クロンベルクアカデミーにてミハエラ・マーティン氏のもと研鑽を積んでいる。



大山 平一郎 Heichiro Ohyama [ヴィオラ]

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972年マールボロ音楽祭にヴィオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミッシャ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973年カリフォルニア大学助教授に就任。1979年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞(芸術祭優秀賞)を受賞。現在、The Lobero

Theatre Chamber Music Project (米国サンタ・バーバラ) 音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティストティック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。



加藤 文枝 Fumie Kato [チェロ]

京都市出身。2006年パリエコールノルマル音楽院に給付生として留学。2010年東京芸術大学音楽学部器楽科チェロ専攻卒業。学内にて、安宅賞、アカンサス賞、三菱地所賞受賞。2010・2011年サントリーホール室内楽アカデミー第1期生。2014年東京芸術大学大学院修士課程修了、アカンサス音楽賞受賞。パリ市立音楽院を満場一致の首席で卒業。第8回ピパホールチェロコンクール第1位。第7・8回東京音楽コンクール弦楽部門第2位。F L A M E国際コンクール第3位。平成23年度京都市芸術文化特別奨励者。これまでに、故 杉山 實、ドナルド・リッチャー、アラン・ムニエ、河野文昭、ラファエル・ビドゥの各氏に師事。また、室内楽を岡山潔、松原勝也、P.ルコール、E.ルサージュ、P.メイエの各氏に師事。財団法人地域創造による公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。Music Dialogue アーティスト。



吉見 友貴 Yuki Yoshimi [ピアノ]

2000年生まれ。高校2年在学中、第86回日本音楽コンクールで最年少優勝を果たす。CHANEL Pygmalion Days 2019年度アーティスト。これまでに東響、東京シティ・フィル、東フィル、新日本フィル、神奈川フィル等と共演。現在、ニューイングランド音楽院(ボストン)に奨学生として在学中。アレクサンダー・コルサントニア、上野久子の各氏に師事。2019年、2020年度ローム・ミュージック・ファンデーション奨学生。

@Imura Shigeto

山岸 園子 Sonoko Yamagishi [司会]

聖心女子大学文学部歴史社会学科卒業。グロービス経営大学院(MBA)修了。株式会社リンクアンドモチベーションにて、人材育成や組織風土改革に関する業務に従事。若年層向け教育サービスを提供する新会社立ち上げを担当した。その後株式会社グロービスに入社し、現在は経営大学院/グロービス・マネジメント・スクールにて、マーケティング・学生募集部門の戦略立案やチームマネジメントを担当している。12歳からヴィオラを始め、現在もアマチュアオーケストラなどで演奏している。

◇次回公演のお知らせ◇Music Dialogue ディスカバリーシリーズ 2020-21 Vol.5

・本公演：2021年3月5日(金) 19:00 開演 本公演

【会場】 加賀町ホール(大江戸線牛込柳町駅から徒歩5分)

・字幕解説付き公開リハーサル：2021年3月2日(火) 18:30 開始

【会場】 中目黒 GT プラザホール (中目黒駅南口よりすぐ)

【曲目】 ドヴォルザーク テルツェット (弦楽三重奏曲) 作品 74・弦楽五重奏曲 変奏長調 作品 97

【出演】 城戸かれん (ヴァイオリン)、谷本華子 (ヴァイオリン)、中恵菜 (ヴァイオリン)、

大山平一郎 (ヴィオラ)、柴田花音 (チェロ)



今後のイベントについては Music Dialogue ウェブサイトをご覧ください！

www.music-dialogue.org

作品解説

A.ドヴォルザーク (1845-1924) : 弦楽五重奏曲 作品 97(1893 年作曲)
Antonín Dvořák : Quintett E-flat major op. 97

ドヴォルザークはイギリス演奏旅行の成功をきっかけに国際的な評価を獲得しました。その名声は遠くアメリカにも伝わり、ニューヨークに新設される音楽院の院長として招かれることになりました。そこで彼はアフリカ系の人々、ネイティブアメリカン、そして入植アメリカ人という多様な人々の音楽や文化に出会い、むさぼるようにそれらを吸収していきました。こうした経験は既に熟練の域に達していた作曲家ドヴォルザークに一層の独創性を与え、晩年の傑作群が生み出されることとなります。ドヴォルザークは新天地で忙しく働きながら、いつもチェコの面影を求めていました。任地ニューヨークから1700km離れたアイオワ州スピルヴィルにはチェコ人の小さな町があり、ドヴォルザークは初めての休暇をそこで過ごすことになりました。大好きな自然に囲まれ、珍しい鳥のさえずりを聴き、ネイティブアメリカンの歌と踊りを見聞き、町の教会でチェコ語の賛美歌を伴奏する・・・こうして心にチェコを補充し、新鮮な経験を通して創作意欲がかきたえられたドヴォルザークは弦楽四重奏曲「アメリカ」とこの弦楽五重奏曲という傑作を相次いで書き上げました。本作は弦楽四重奏にヴァイオリンが1本加わる編成で、時に「ヴァイオラ五重奏」と呼ばれることもあるほどヴァイオラが大活躍する作品です。

(鉢村優)

スコアのダウンロードはこちら↓



<お知らせ：昨年開催したオンライン連続講座をオンデマンドでご視聴いただけるようになりました>

Music Dialogue オデッセイ・シリーズ「芸術を探究する旅」オンライン連続講座 Vol. 1 :

「芸術を自分の言葉で語れるようになろう！」 ナビゲーター：小室敬幸

<https://filmuy.com/musicdialogue>

Music Dialogue へのご支援を通して、ぜひ次の世代を担う演奏家たちの成長を応援していただければ幸いです！



Music Dialogue デイスカバリー・シリーズ 2020-2021 Vol.5

公開リハーサル@中目黒 GT プラザ

2021年3月2日(火)開演 18:30

プログラム

◆A.ドヴォルザーク (1845-1924) : 弦楽五重奏曲 作品 97(1893 年作曲)
Antonín Dvořák : Quintett E-flat major op. 97

1. Allegro non tanto
2. Allegro vivo — Un poco meno mosso
3. Larghetto with 5 variations
4. Finale. Allegro giusto

城戸かれん(ヴァイオリン)、谷本華子(ヴァイオリン)、中恵菜(ヴァイオリン)
大山平一郎(ヴァイオリン)、柴田花音(チェロ)

◆解説者 小室敬幸(音楽ライター)、白沢達生(翻訳家、音楽ライター)

◆お客様とのダイアログ

※演奏者に聞いてみたいことなどありましたらぜひ以下の方法が QR コードから質問を送信してください。

インターネットにて「sli.do」と検索→イベントコード「41577」をご入力ください。



[共催] 一般社団法人 Music Dialogue

[協力] 日本音楽財団(日本財団助成事業)

[認定] 公益社団法人 企業メセナ協議会



演奏者プロフィール



城戸かれん Karen Kido [ヴァイオリン]

4歳よりヴァイオリンをはじめ、全日本学生音楽コンクール、ミケランジェロ・アバド国際ヴァイオリンコンクール(ミラノ)第1位、ジョルジュ・エネスコ国際コンクール(プラレスト)にて特別賞を受賞。2010年、第14回松方ホール音楽賞、第79回日本音楽コンクール第2位を受賞。2016年、デンマークにて開催されたカール・ニールセン国際ヴァイオリンコンクールにおいて第4位に入賞する。宮崎国際音楽祭、東京・春・音楽祭、Chanel Pygmalion Daysなどに出演するほか、日本フィル、バーデン=バーデン・フィル、都響、芸大フィル、東京シティ・フィル、宮崎国際音楽祭管弦楽団等と共演。これまでに三戸泰雄、原田幸一郎、漆原朝子、堀正文、ドン=スク・カン各氏に師事。徳永二男、川崎雅夫、R.バスキエ各氏の教えを受ける。東京藝術大学を首席で卒業、学内にて福島賞、安宅賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞を受賞。2020年同大学院音楽研究科修士課程を修了。紀尾井ホール室内管弦楽団2020,2021年度シーズンメンバーとして研鑽を積むほかソロ、室内楽、オーケストラの幅広い分野で活動。



谷本華子 Hanako Tanimoto [ヴァイオリン]

桐朋学園大学ソリストディプロマコースを経て、ロームミュージックファンデーションの奨学金を受賞し、カナダ・ブランドン大学へ留学。カナダナショナルヴァイオリンコンクール第2位、シェーンヴァイオリンコンクール第1位、その他多数の受賞を重ねる。現在、ソロや室内楽を中心に、長岡京室内アンサンブル、いずみシンフォニエッタ大阪、東京バロックプレイヤーズのメンバーとして活動するほか、兵庫県立西宮高校音楽科特別非常勤講師、宝塚ミュージックリサーチ顧問として後進の指導にも努める。

公式ホームページ hanakotanimoto.com



大山 平一郎 Heiichiro Ohyama [ヴァイオリン]

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972年マールボロ音楽祭にヴァイオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥルブルー、ミシヤ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973年カリフォルニア大学助教授に就任。1979年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴァイオリン奏者に任命され、1987年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞(芸術祭優秀賞)を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project(米国サンタバーバラ)音楽監督、CHANEL Pygmalion Days室内楽シリーズのアーティストティック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。



中恵菜 Meguna Naka [ヴァイオリン]

21歳でヴァイオリンに転向。桐朋学園大学音楽学部を経て、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンマスター課程修了。Quartet Amabileのヴァイオリン奏者として、第65回ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位に入賞、2019年YCA International Auditionsにて優勝、その他多数優勝。テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK-FM「リサイタル・パッソ」、ヴィオラスペース、その他多数出演。CHANEL Pygmalion Days室内楽アーティスト。Music Dialogue アーティスト。

国内オーケストラの客演首席奏者を務める。これまでに、ヴァイオリンを佐々木亮、ヴァルター・キュスナー各氏に師事。使用楽器は宗次コレクションより特別に貸与された Montagnana。



柴田花音 Kanon Shibata [チェロ]

第70回全日本学生音楽コンクールチェロ部門全国大会第1位、及び横浜市民賞、日本放送協会賞、かんぼ生命奨励賞受賞。第79回日本音楽コンクールチェロ部門入選。第40回霧島国際音楽祭受賞。リサイタル・ノヴァ、「題名のない音楽会」等出演。東京フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団等と共演。2020年度ヤマハ音楽奨学生。これまでに林良一、野村友紀、山崎伸子、中木健二各氏に師事。現在トロント王立音楽院グレングールドスクールにてH.J.ゼンセン、A.ディアスの両氏に師事。室内楽をD.ゲーバー、P.ズッカマン、B.シフマン等の指導を受ける。

=====
◇次回公演のお知らせ◇Music Dialogue ディスカバリーシリーズ 2021-22 Vol.1
・本公演：2021年5月28日(金) 19:00 開演 本公演
【会場】 加賀町ホール(大江戸線牛込柳町駅から徒歩5分)
・字幕解説付き公開リハーサル：2021年5月25日(火) 18:30 開始
【会場】 中目黒 GT プラザホール(中目黒駅南口よりすぐ)
【曲目】 プラームス 弦楽四重奏曲 第2番 イ短調 作品51-2
プラームス 弦楽五重奏曲 第1番 へ長調 作品88
【出演】カルテット・アマービレ(篠原悠那・北田千尋・中恵菜・笹田樹)・大山平一郎(ヴァイオリン)

今後のイベントについては Music Dialogue ウェブサイトをご覧ください！

www.music-dialogue.org

作品解説

A.ドヴォルザーク (1845–1924) : 三重奏曲 作品 74(1887 年作曲)

Antonín Dvořák : Terzett C-Dur op. 74

チェコの小さな村で宿屋兼肉屋の息子として生まれたドヴォルザーク (1841-1904)は、豊富な民俗音楽の伝統の中で育ちました。踊りと歌を愛する人々に混じって宿屋でヴァイオリンを弾く中で、ドヴォルザーク特有の朗らかな楽想が養われていきます。ヴァイオリンだけでなくヴィオラが堪能だった彼は自然と多くの室内楽を作曲するようになりました。それらは音楽のフロンティアを拓くような芸術性を秘めているだけでなく、友人と語り楽しむひとときの中心となる音楽でした。本作は後者をよく表わす作品で、ブラハのドヴォルザーク家に居候していた青年とそのヴァイオリンの先生、そしてヴィオラを担当するドヴォルザークの3人で演奏するために書かれました。しかし居候氏には難しすぎて弾きこなせず、彼はより易しい作品（「ミニアチュール」作品 75a）を追加で書かなくてはなりませんでした。そんな後日談を含めて、隣人との交流を好み、その経験のなかから多くの楽想を生み出していったドヴォルザークの暮らしぶりがしのばれる作品です。



A.ドヴォルザーク (1845–1924) : 弦楽五重奏曲 作品 97(1893 年作曲)

Antonín Dvořák : Quintett E-flat major op. 97

ドヴォルザークはイギリス演奏旅行の成功をきっかけに国際的な評価を獲得しました。その名声は遠くアメリカにも伝わり、ニューヨークに新設される音楽院の院長として招かれることになりました。そこで彼はアフリカ系の人々、ネイティブアメリカン、そして入植アメリカ人という多様な人々の音楽や文化に出会い、むさぼるようにそれらを吸収していききました。こうした経験は既に熟練の域に達していた作曲家ドヴォルザークに一層の独創性を与え、晩年の傑作群が生み出されることとなります。ドヴォルザークは新天地で忙しく働きながら、いつもチェコの面影を求めていました。任地ニューヨークから 1700km 離れたアイオワ州スプリングフィールドにはチェコ人の小さな町があり、ドヴォルザークは初めての休暇をそこで過ごすことになりました。大好きな自然に囲まれ、珍しい鳥のさえずりを聴き、ネイティブアメリカンの歌と踊りを見聞きし、町の教会でチェコ語の賛美歌を伴奏する…こうして心にチェコを補充し、新鮮な経験を通して創作意欲がかきたえられたドヴォルザークは弦楽四重奏曲「アメリカ」とこの弦楽五重奏曲という傑作を相次いで書き上げました。本作は弦楽四重奏にヴィオラが 1 本加わる編成で、時に「ヴィオラ五重奏」と呼ばれることもあるほどヴィオラが大活躍する作品です。



(鉢村優)

Music Dialogue へのご支援を通して、ぜひ次の世代を担う演奏家たちの成長を応援していただければ幸いです！



Music Dialogue デイスカバリー・シリーズ 2020-2021 Vol.5

@加賀町ホール

2021 年 3 月 5 日 (金) 開演 19 : 00

プログラム

◆A.ドヴォルザーク (1845–1924) : 三重奏曲 作品 74(1887 年作曲)

Antonín Dvořák : Terzett C-Dur op. 74

1. Introduzione. Allegro ma non troppo
2. Larghetto
3. Scherzo. Vivace — Trio. Poco meno mosso
4. Tema con variazioni. Poco Adagio—Molto

谷本華子(ヴァイオリン)、城戸かれん(ヴァイオリン)、中恵菜(ヴィオラ)

◆A.ドヴォルザーク (1845–1924) : 弦楽五重奏曲 作品 97(1893 年作曲)

Antonín Dvořák : Quintett E-flat major op. 97

1. Allegro non tanto
2. Allegro vivo — Un poco meno mosso
3. Larghetto with 5 variations
4. Finale. Allegro giusto

城戸かれん(ヴァイオリン)、谷本華子(ヴァイオリン)、中恵菜(ヴィオラ)
大山平一郎(ヴィオラ)、柴田花音(チェロ)

◆お客様とのダイアログ

※演奏者に聞いてみたいことなどありましたらぜひ以下の方法で QR コードから質問を送信してください。

インターネットにて「sli.do」と検索→イベントコード「87300」をご入力ください。



[共催] 一般社団法人 Music Dialogue
[協力] 日本音楽財団 (日本財団助成事業)
[認定] 公益社団法人 企業×セナ協議会



演奏者プロフィール



城戸かれん Karen Kido [ヴァイオリン]

4歳よりヴァイオリンをはじめ、全日本学生音楽コンクール、ミケランジェロ・アバド国際ヴァイオリンコンクール(ミラノ)第1位、ジョルジュ・エネスコ国際コンクール(プラレスト)にて特別賞を受賞。2010年、第14回松方ホール音楽賞、第79回日本音楽コンクール第2位を受賞。2016年、デンマークにて開催されたカール・ニールセン国際ヴァイオリンコンクールにおいて第4位に入賞する。宮崎国際音楽祭、東京・春・音楽祭、Chanel Pygmalion Daysなどに出演するほか、日本フィル、バーデン=バーデン・フィル、都響、芸大フィル、東京シティ・フィル、宮崎国際音楽祭管弦楽団等と共演。これまでに三戸泰

雄、原田幸一郎、漆原朝子、堀正文、ドン=スク=カンの各氏に師事。徳永二男、川崎雅夫、R.バスキエの各氏の教えを受ける。東京藝術大学を首席で卒業、学内にて福島賞、安宅賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞を受賞。2020年同大学院音楽研究科修士課程を修了。紀尾井ホール室内管弦楽団2020,2021年度シーズンメンバーとして研鑽を積むほかソロ、室内楽、オーケストラの幅広い分野で活動。



谷本華子 Hanako Tanimoto [ヴァイオリン]

桐朋学園大学ソリストディプロマコースを経て、ロームミュージックファンデーションの奨学金を受賞し、カナダ・ブランドン大学へ留学。カナダナショナルヴァイオリンコンクール第2位、シェーンヴァイオリンコンクール第1位、その他多数の受賞を重ねる。現在、ソロや室内楽を中心に、長岡京室内アンサンブル、いずみシンフォニエッタ大阪、東京バロックプレイヤーズのメンバーとして活動するほか、兵庫県立西宮高校音楽科特別非常勤講師、宝塚ミュージックリサーチ顧問として後進の指導にも努める。公式ホームページ

hanakotanimoto.com



大山 平一郎 Heichiro Ohyama [ヴァイオリン]

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972年マールボロ音楽祭にヴァイオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミッシャ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973年カリフォルニア大学助教授に就任。1979年にジュリー=ニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴァイオリン奏者に任命され、1987年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero

Theatre Chamber Music Project（米国サンタ・バーバラ）音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティスティック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督



中恵菜 Meguna Naka [ヴァイオリン]

21歳でヴァイオリンに転向。桐朋学園大学音楽学部を経て、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンマスター課程修了。Quartet Amabileのヴァイオリン奏者として、第65回ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位に入賞、2019年YCA International Auditionsにて優勝、その他多数優勝。テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK-FM「リサイタル・パッシオ」、ヴィオラスペース、その他多数出演。CHANEL Pygmalion Days 室内楽アーティスト。Music Dialogue アーティスト。国内オーケストラの客演首席奏者を務める。これまでに、ヴァイオリンを佐々木亮、ヴァルター・キュスナーの各氏に師事。使用楽器は宗次コレクションより特別に貸与された Montagnana。

。これまでに、ヴァイオリンを佐々木亮、ヴァルター・キュスナーの各氏に師事。使用楽器は宗次コレクションより特別に貸与された Montagnana。



柴田花音 Kanon Shibata [チェロ]

第70回全日本学生音楽コンクールチェロ部門全国大会第1位、及び横浜市民賞、日本放送協会賞、かんぼ生命奨励賞受賞。第79回日本音楽コンクールチェロ部門入選。第40回霧島国際音楽祭受賞。「リサイタル・ノヴァ」、「題名のない音楽会」等出演。東京フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団等と共演。2020年度ヤマハ音楽奨励賞。これまでに林良一、野村友紀、山崎伸子、中木健二の各氏に師事。現在トロント王立音楽院グレンゲールドスクールにてH.J.ゼンセン、A.ディアスの両氏に師事。室内楽をD.ゲバー、P.ズッカマン、B.シフマン等の指導を受ける。

山岸 園子 Sonoko Yamagishi [司会]

聖心女子大学文学部歴史社会学科卒業。グロービス経営大学院（MBA）修了。株式会社リンクアンドモチベーションにて、人材育成や組織風土改革に関する業務に従事。若年層向け教育サービスを提供する新会社立ち上げを担当した。その後株式会社グロービスに入社し、現在は経営大学院／グロービス・マネジメント・スクールにて、マーケティング・学生募集部門の戦略立案やチームマネジメントを担当している。12歳からヴァイオリンを始め、現在もアマチュアオーケストラなどで演奏している。

◇次回公演のお知らせ◇Music Dialogue ディスカバリーシリーズ 2020-21 Vol.5

- ・本公演： 2021年5月28日(金) 19:00 開演 本公演
【会場】 加賀町ホール(大江戸線牛込柳町駅から徒歩5分)
- ・字幕解説付き公開リハーサル： 2021年5月25日(火) 19:00 開始
【会場】 中目黒 GT プラザホール (中目黒駅南口よりすぐ)
【曲目】ブラームス 弦楽四重奏曲第2番 短調 作品51-2
ブラームス 弦楽五重奏曲第1番 長調 作品88
【出演】カルテット・アマビレ (篠原悠那・北田千尋・中恵菜・笹沼樹)・大山平一郎(ヴァイオリン)

今後のイベントについては Music Dialogue ウェブサイトをご覧ください！

www.music-dialogue.org